

令和6年度

秋季近畿地区高等学校軟式野球大会
(わたSHIGA輝く国スポ2025リハ大会)

開 催 要 項

期日 令和6年 11月 9日 (土)

10日 (日)

16日 (土)

〔雨天順延 予備日：11日，12日，17日〕

会場 甲賀市水口スポーツの森野球場

(甲賀市民スタジアム)

今津総合運動公園 (今津スタジアム)

主催 近畿地区高等学校野球連盟

主管 (一財) 滋賀県高等学校野球連盟

大会役員

顧問 公益財団法人 日本高等学校野球連盟会長 寶 馨

大会会長 (一財) 滋賀県高等学校野球連盟会長 馬場光仁

大会副会長 (一財) 滋賀県高等学校野球連盟副会長 明吉正知

(一財) 滋賀県高等学校野球連盟副会長 田濃良和

(一財) 滋賀県高等学校野球連盟副会長 江竜康成

大会参与 (一財) 滋賀県高等学校野球連盟専務理事 大久保雅生

大会委員長 (一財) 滋賀県高等学校野球連盟常務理事 雲林院寿文

大会副委員長 (一財) 兵庫県高等学校野球連盟常務理事 江口正芳

(一財) 奈良県高等学校野球連盟理事 石丸貴大

(一財) 京都府高等学校野球連盟軟式部理事長 森田敦也

(一財) 和歌山県高等学校野球連盟理事 佐々木智礼

(一財) 大阪府高等学校野球連盟軟式部委員長 多田真己

大会委員 (一財) 滋賀県高等学校野球連盟理事

(一財) 滋賀県高等学校野球連盟加盟校顧問

審判委員 (一財) 滋賀県高等学校野球連盟審判委員

令和6年度秋季近畿地区高等学校軟式野球大会

組み合わせ・日程

日 程 : 令和6年11月9日(土)・10日(日)・16日(土)

[予備日:11日(月)・12日(火)・17日(日)]

主 催 : 近畿地区高等学校野球連盟

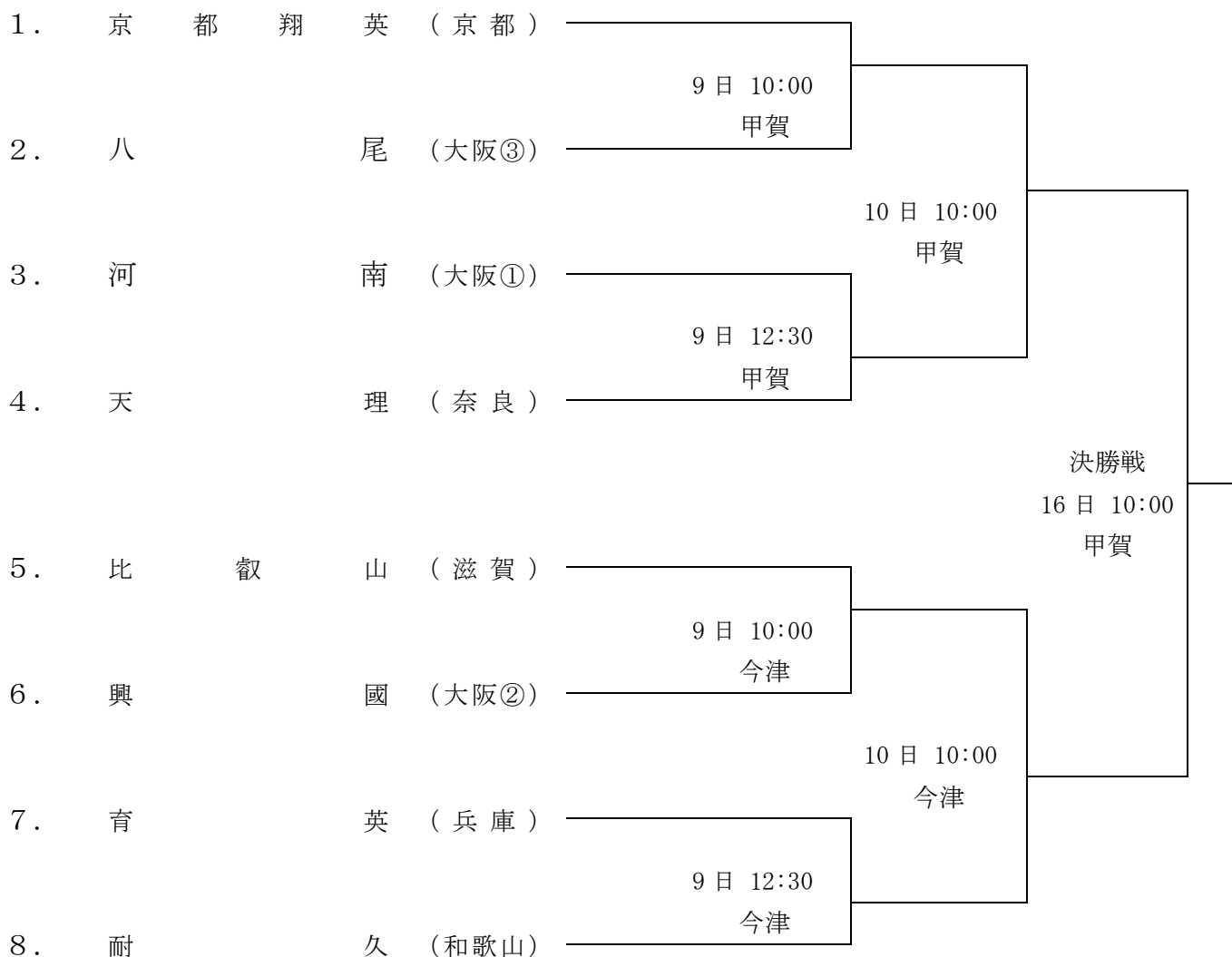
主 管 : (一財)滋賀県高等学校野球連盟

会 場 : 甲賀市水口スポーツの森野球場(甲賀市民スタジアム)

高島市総合運動公園野球場(今津スタジアム)

[出 場 校] 大阪府代表 3校
滋賀県代表 1校
京都府代表 1校
奈良県代表 1校
和歌山県代表 1校
兵庫県代表 1校 計 8 校

※若い番号のチームが一塁側ベンチ



令和6年度 秋季近畿地区高等学校軟式野球大会

開 催 要 項

- 1 主 催 近 畿 地 区 高 等 学 校 野 球 連 盟
- 2 後 援 毎日新聞大津支局 朝日新聞大津総局
- 3 主 管 (一財) 滋賀県高等学校野球連盟
- 4 期 日 令和6年11月9日(土)・10日(日)・16日(土)
〔予備日: 11日(月)・12日(火)・17日(日)〕
- 5 会 場 甲賀市水口スポーツの森野球場(甲賀市民スタジアム)
高島市総合運動公園野球場(今津スタジアム)
- 6 試合日程 抽選会は各府県理事による代理抽選とし8月7日(水)に行う。
- 7 試合方法 トーナメント方式による。

8 試合規定

〔試合上の注意〕

- (1) 試合は2024年度公認野球規則、アマチュア野球内規、高校野球特別規則及び近畿地区高等学校野球連盟軟式部が定めた特別規則を適用する。
- (2) 審判委員は主催者側が委嘱する。審判委員は4人制とする。
- (3) 審判委員に対するアピールは、規則適用上の疑問をただす時だけで、主将、伝令または問題の当事者に限る。
- (4) 9回終了時点で両校同点の時はタイブレークによって上位進出校を決定する。
 - ① タイブレーク導入開始回については、9回終了時に同点の場合、10回からタイブレークを開始する。
 - ② 打順は、9回終了時の打順を引き継ぐものとする。(次回以降も前イニング終了後からの継続打順)
 - ③ 走者は無死、一・二塁の状態から行うものとする。この場合の2人の走者は、前項の先頭打者の前の打順のものが一塁走者、一塁走者の前の打順のものが二塁走者となる。
 - ④ タイブレークを開始する各イニングの前に、審判委員と両チームは各塁上の走者に誤りがないか十分に確認する。その後、守備側の選手交代およびポジション変更、攻撃側の代打および代走は認められる。
 - ⑤ タイブレーク開始後、降雨等でやむなく試合続行が不可能になった場合は継続試合とし、翌日以降に改めて試合を再開する。
 - ⑥ タイブレーク開始後、15回を終了し決着していない場合においても、そのまま試合を続行する。ただし、1人の投手が登板できるイニング数については15イニング以内を限度とする。
- (5) 試合は次の場合、継続試合もしくはコールドゲームとする。
 - (ア) 降雨、日没などの理由により審判委員が試合の続行が不可能と判断した場合は継続試合を実施する。
 - (イ) 得点差によるコールドゲームを適用する場合
 - 5回完了もしくは5回表終了以降: 10点差
 - 7回完了もしくは7回表終了以降: 7点差なお、決勝戦には(イ)を適用しない。
- (6) 雨天順延などで日程が著しく変更され、準決勝、決勝を同日に行う場合、投手が登板できるイニング数は両試合を通じて合計15イニング以内とする。2試合目も登板が予定される投手は第1試合終了後のアイシングはしないこと。

(7) 投手の投球制限を実施する。(高校野球特別規則 2024 年版<附記>)

▽投球数、試合について

- ① 1 人の投手が投球できる総数は 1 週間 500 球以内とする。
- ② 試合が降雨、暗黒などで続行不可能となり継続試合となった試合の投球数も 500 球の制限に投球数としてカウントする。

▽投球数(公式記録)の取り扱い

- ① 試合終了後、公式記録で大会本部と両チームは各投手の投球数を確認する。
- ② 大会本部は、それまで 1 週間の試合の各投手の投球数をメンバー用紙に書き添え、試合前のメンバー交換時にメンバー用紙を双方に配布し、投球数を確認する。(直近 1 週間に試合を行っていないチームは除く)

▽1 週間で 500 球に到達した場合の取り扱い

- ① 500 球に到達した打者の打撃完了まで投球可能。(次打者で投手交代)
- ② 降板した投手は、以降当該試合では投球できない。

(8) 申告故意四球を採用する。

- ・守備側 申告は伝令からに限る。また、連続して行う場合、最初の通告時に申し出ることもできる。カウントの途中からでも適用可とする。申告後、その打者への投球数は加算されない。
- ・攻撃側 当該打者は一旦必ず打者席に入る。
- ・審判 球審はタイムをかけ打者に 1 塁を与える。

(9) 試合中攻守交代は、特に迅速に行うこと。

(10) スピーディーな試合進行を図るため、守備側、攻撃側とも「タイムの回数制限」(高校野球特別規則 15)を適用する。

1) 内野手(捕手を含む)が投手のもとへ行ける回数を、1 イニングにつき 1 回 1 人だけとする。

- ① 伝令が投手のもとに行ったときは内野手(捕手を含む)が投手のもとへ行った回数に数えない。
- ② 投手が交代したとき、最後の準備投球の後に内野手(捕手を含む)が投手のもとへ行けば、内野手(捕手を含む)が投手のもとへ行った回数に数える。
- ③ タイブレークに入った場合も同様とする。

2) 守備側の伝令によるタイムの制限

- ① 監督の指示を伝える伝令は、マウンドにいける回数を 1 試合に 3 回までとする。注) 回数は球審と控え審判で確認し、球審は伝令のたびにベンチの監督とタイムの回数を指差し確認する。都道府県大会や地区大会で控え審判がいない場合は、球審と守備についている側の塁審(一塁側が守備についている場合は一塁塁審、三塁側が守備についている場合は三塁塁審)が確認する。
- ② 延長回(タイブレーク)に入った場合は、それ以前の回数に関係なく、1 イニングにつき 1 回だけマウンドに行くことが許される。
- ③ この場合の伝令がマウンドに行くとは、ファウルラインを越えたかどうかを基準とする。
- ④ 伝令は、審判員が“タイム”を宣告してから 30 秒以内とする。注) 計時は控え審判が行い、球審に知らせることとする。都道府県大会や地区大会で控え審判がいない場合は、守備についている側の塁審が計時する。
- ⑤ 内野手(捕手を含む)が 2 人以上マウンドに行った場合は、1 回にカウントする。
注) 野手がマウンドに集まることについては、各塁と投手板の間の中間距離を目安とし、それを越えた場合は、1 回としてカウントする。この場合も、球審は守備側のベンチに向かって指でそのタイムの回数を知らせる。
- ⑥ 投手交代の際に野手がマウンドへ集まったり、伝令がマウンドに行ってもタイムの回数にカウントし

ない。ただし、準備投球が始まってから再び複数の野手がマウンドへ集まったり伝令がマウンドに行った場合は、回数をカウントする。

- ⑦ 投手が塁や本塁のカバーリングをした後、内野手のうち2人が投手に近寄りマウンド周辺までついて行く場合、よどみなく自然の流れの中での動きと審判員が認めたときは、タイムの回数とは数えない。しかし、立ち止まって作戦の打ち合わせをしていると見なされるときは、タイムとしてカウントする。

3) 攻撃側の伝令によるタイムの制限

- ① 打者および走者に対する伝令は、1試合につき3回までとする。
- ② 延長回（タイブレーク）に入った場合は、それ以前の回数に関係なく、1イニングにつき1回だけ伝令を使うことが許される。
- ③ 攻撃側に責任なく試合が中断（例えば選手の怪我や選手の交代など）した際の伝令は、回数としてカウントしない。
- ④ 伝令は、審判員が“タイム”を宣告してから30秒以内とする。
- ⑤ 回数の確認は、守備側の伝令と同じ方法で行う。
- 4) 相手側のタイム中に伝令を出すことは認められるが、相手側のタイムが終了してもなお継続する場合はそのチームのタイムとしてカウントする。また、どのような場合でも選手をベンチに呼び戻すことは禁止する。

- (11) 次打者は速やかに次打者席内に入ること。次打者席内では素振り（トレーニングバット可）をしても構わないが、投手が投手板についたらプレイに注目し、前の打者が攻撃を完了すれば、速やかに打者席へ入ること。また打者はみだりに打者席を外してはならない。試合中、攻撃側選手に不慮の事故などが起き、一時走者を代えないと試合の中断が長引くと審判委員が認めた時は、相手チームに事情を説明し、臨時的代走者を許可することができる。この代走者は試合に出場している選手に限られ、相手チームに指名権はない。（高校野球特別規則11）

- ・臨時代走はその代走者がアウトになるか、得点するか、またはイニングが終了するまで継続する。
- ・臨時代走者に替えて別の代走者を送ることはできる。この場合、負傷した選手に代走が起用されたことになり、負傷選手は以後出場できない。

代走者は投手を除いた選手のうち、

- ① 打者が死球などで負傷した場合は、投手を除く打撃の完了した直後の者。
- ② 塁上の走者が負傷した場合は、その時の打者を除く打撃を完了した直後の者。

（注）死球を受けたり、すべり込みなどでケガをしたりする場合は、手当さえすれば再び出場できるが、手当に多少の時間がかかり、試合を一時中断しなければならないようなとき、前記の手続きをしてその走者のプレイを完了することができる。

- (12) 大会に出場する責任教師、監督並びに選手は令和6年度大会参加者資格規定に適合したもので、選手資格証明書に記入された責任教師、監督並びに選手に限る。

チームまたは選手が大会参加者資格規定に触れたときは、それが分かった時点で相手校に勝利を与える。

なお、責任教師、監督が、大会参加中の試合に関する不正行為をしたときは、相手校に勝利を与える。

- ① 大会参加者資格規定に触れたチームが大会組み合わせ抽選後に判明した場合は、試合を没収して相手校を不戦勝とする。
- ② 大会参加者資格規定に触れたチームが試合中に発見されたときはただちに試合を没収して相手校に勝利を与える。
- ③ 大会参加者資格規定に触れたチームが試合後に判明したときは、そのチームの勝利を取り消し、最終試合を行ったチームに勝利を与え、その以前にさかのぼって再試合を行うことはできない。

- (13) 打者、走者、ベースコーチ、バットボーイは、危険防止のため、必ず両耳つきヘルメットを着用すること。色彩は黒、紺または白のいずれか1色とし、表面にはチームの校名および、その頭文字、校章、番号以外の

表示はできない。また、側頭部への校名などの表記を禁止し、前頭部1ヶ所とする。なお、後頭部または側頭部への番号表記は差し支えない。捕手は守備につく際、必ずヘルメット、マスク、プロテクター、レガーズ・急所カップを着用すること（ブルペンにおいても同様である。）マスク、プロテクター、レガーズの色彩は、黒、紺とし、ヘルメットの色彩と表記は打者用と同じ扱いとする。

(14) 高校野球で使用できるバット 高校野球（硬式・軟式）で使用できるバットは次の通りである。

1) 認可の種類

① 木製バット

② 木片の接合バット

③ 竹の接合バット

④ 金属製バット ▽ 金属製バットは、2024年シーズンインから2022年2月18日に定めた新基準によるものとし、一般財団法人製品安全協会の定めたSG基準に適合した、SGマーク(右図参照)添付の製品に限る。 ▽ 軟式野球で複合バットの使用はできない。

2) 色彩

① 使用できる木製の着色バットは以下の通りとする。

ア) 黒色・ダークブラウン系・赤褐色系および淡黄色系とする。

イ) 木目を目視できるものとする。

ウ) 拙劣な塗装術を用いていないものとする。（例えばボールに塗装が付着 するなど）

② 金属製バットの本体色は硬式では、シルバー系、ゴールド系またはブラックとし、軟式では単色とする。ただし、プレイを妨げとなるような反射するものは認めない。

③ 金属製バットのツートンカラーのものは認めず、一色とする。

3) その他の注意

① 鉄棒、バットリング、滑り止めスプレーなどをベンチ内に持ち込むことを 禁止する。

② 金属製バットの表面にへこみ、ヒビ割れ、グリップのゴムや皮にゆるみ、 破れがないか注意すること。

(15) 金属製バットの使用は（公財）日本高等学校野球連盟で認可したものに限る。ただし、軟式用バットの表示の大きさは、先端部のモデル名表示、握りに近い部分の製造業者または製造委託業者の名称を含めて縦8cm、横28cm以内とし、2箇所（表面・裏面）まで認めることとし、1文字の大きさは問わない。なお、カラーは単色とする。また、軟式用バットはテーパー部にはリング等商標と認識されない印刷は認める。

(16) 走者やベースコーチなどが、捕手のサインを見て打者にコースや球種を伝える行為を禁止する。もし疑わしい行為があれば、審判委員はタイムをかけ、当該選手と攻撃側ベンチに注意し、止めさせる。

【試合当日の注意】

(1) 選手の背番号は白地の布に黒色または紺色の数字とし、各チームで準備しユニフォームにつけること。背番号は必ず登録順につけること。

(2) ベンチは組み合わせ番号の若い方を1塁側とする。

(3) （到着時間）第1試合出場校は試合開始予定時刻の1時間前までに、第2試合の出場校は第1試合開始予定時刻に球場に到着し、本部に到着の旨を報告しメンバー表を提出する。その際、校旗及び校歌のCDも提出する。

(4) （攻守決定）第1試合は、試合開始予定時刻の40分前に、第2試合は前試合の4回終了時に、役員・審判の立ち会いのもとで行う。その際、監督（1回戦のみ）、責任教師、主将、テーピング等の許可を受けようとする者は本部前に集合すること。このとき、メンバー表を交換する。

(5) ベンチには選手資格証明書に登録された選手18人と責任教師、監督各1人、記録員1人のほかは入れない。責任教師は所属連盟のシャツまたは平服を着用する。監督は背番号をつけず、選手と同じユニフォームを着用し選手と同じ黒または白のシューズをはくこと。記録員は、都道府県高等学校野球連盟に部員として登録

されたもので、男女は問わない。ベンチ入りの際の服装は、各校の制服とする。試合毎の変更も可能。

- (6) ベンチへは、鉄棒、バットにはめるリングなどの持ち込みを禁じる。また試合中ベンチ内でのラジオ、ビデオカメラ、携帯電話、スマートウォッチなどの電子機器の持ち込みを禁止する。
- (7) グラウンド内で打撃練習（トスバッティングを含む）は一切できない。
- (8) シートノックは前試合終了後、大会本部の指示により開始すること。制限時間は7分間とする。ただし時間の都合で短縮、または省くこともある。シートノック時には、選手と同じユニフォームを着用したノッカー1人と練習補助員が3人まで参加できる。ただし補助員は、ヘルメットを着用の上、背番号のついていない試合用のユニフォームにアップシューズとし、ノックを受けることは不可。ノック終了後、ノッカー・練習補助員は速やかにグラウンドから退場する。

9 責任教師・監督・登録選手

- (1) 試合には必ず責任教師が付き添い、選手及び部員について、一切の責任を負うこと。
- (2) 本大会に参加するにあたっては、すべての選手及び部員の保護者から同意を得た上で、学校長の同意を得ること。
- (3) 試合に参加できる選手は18名以内とし、1より18の背番号をつける。選手が18名未満の場合でも、1からの続き番号をつけ、欠番号の無いようにすること。
- (4) 校長印（公印）と校医印（任意）の押された選手資格証明書（2通）と各府県高等学校野球連盟で登録されている登録用紙（原本のコピー可、1通）を、11月1日（金）までに下記宛に送付すること。

⇒取り急ぎ、パンフレット用選手名簿をメールで、選手資格証明書をFAXまたはメールでお送り下さい。

〒520-0113 滋賀県大津市坂本4丁目3-1 比叡山高等学校 内 雲林院 寿文 TEL 077-578-0091 FAX 077-579-3413 mail shiga.hbf.nanshiki@gmail.com
--

- (5) 選手資格証明書送付後に、登録選手を変更する場合は、選手登録変更届を自校の第1試合までに提出しなければならない。ただし、特別の事情がある場合には、主催者において協議のうえ決定する。
- (6) やむをえない理由により、責任教師（1名）または監督（1名）の変更をしなければならなくなった場合には、事前に責任教師変更届または監督変更届を提出しなければならない。ただし、突発的な場合には、主催者において協議の上、変更の可否を決定する。

10 選手の健康

主催者は、大会中の不時の負傷、疾病に対して応急の処置をするほかは、一切その責任を負わない。

11 表彰

優勝校と準優勝校を表彰する。

優勝校には、公益財団法人日本高等学校野球連盟の表彰状ならびに優勝旗（持ち回り）・優勝メダルを、準優勝校には同表彰状ならびに準優勝メダルを、それぞれ授与する。

12 応援

一般の観戦を認める。

スピーカー等による応援も認める。

13 費用

出場校は、試合当日20,000円を大会参加費用として、近畿地区高等学校野球連盟軟式部事務局会計に納入すること。

近畿地区高等学校野球連盟軟式部事務局会計

(一財) 滋賀県高等学校野球連盟 常務理事 雲林院寿文 迄

14 その他

- (1) 勝利校の校旗掲揚、校歌演奏を行うので、校旗・校歌CD(一番のみ)を必ず持参すること。
- (2) 雨天等による試合中止の決定は、当日第1試合の開始1時間前以降を原則とする。
- (3) 雨天等で試合開催不能のとき、予備日を使う。ただし日程は11月17日までとし、消化できない場合は同日に準決勝、決勝を行う。
- (4) 大会使用球は、M号球とする。
- (5) 下記の場合について、手袋の使用を認める。
 - ア、打者の両手。
 - イ、走者の両手。但し、手袋を握るだけの使い方は認めない。
 - ウ、投手以外の守備時の受け手。
 - エ、ノッカーのシートノック時。また、使用する手袋に関しては、次の条件を定める。
 - ア、色彩は黒もしくは白とする。
 - イ、商標は手袋の素材と同色のものを、表面の1カ所にのみ表示することとし、その大きさは7平方センチメートル以下とする。
 - ウ、滑り止めのついた手袋の使用は認めない。
- (6) テーピングについて
 - ア、投手の投げ手へのテーピングは禁止する。
 - イ、テーピングを施している選手は、攻守の決定の際に、立ち会いの審判に申告すること。
 - ウ、テーピングのテープの色は、うすだいたい色のみとする。
- (7) メガホンの使用は監督のみとする。
- (8) ボールパーソンは、主管県が担当する。
- (9) 試合開始時・終了時の挨拶は、ホームベースを挟んで整列して行う。握手はしない。
- (10) 試合後の校歌斉唱は行う。

15 連絡・問い合わせ

〒520-0113 滋賀県大津市坂本4丁目3-1

比叡山高等学校 内 雲林院 寿文

TEL 077-578-0091 FAX 077-579-3413

mail shiga.hbf.nanshiki@gmail.com

[携帯] TEL 090-6677-3889

【本大会での甲賀、今津両スタジアムのご利用にあたってのお願い】

- ※1 グランド内へは、両チームそれぞれ一塁側・三塁側ゲートより分かれて入退場してください。
- ※2 第一試合のチームは、8時40分から、ベンチに入れます。
- ※3 アップに、球場周辺をランニングしてもかまいません。
- ※4 球場に到着する10分前に各府県の理事まで連絡をしてください。
- ※5 第2試合を行うチームのウォーミングアップ場所を隣接する練習場を用意しています。
利用される場合は申し出てください。
- ※6 駐車場については公園内の駐車場をご利用ください。
- ※7 応援について、スピーカーを用いての応援も許可されています。

＜タイムスケジュール＞

◎ 1回戦～準決勝				◎ 決勝	
第 1 試合		第 2 試合			
時間	選手の動き	時間	選手の動き	時間	選手の動き
	球場周辺か更衣室で着替え				球場周辺か更衣室で着替え
8:00 頃	開場、入場			8:00 頃	開場、入場
	ベンチ入り(8:40以降)			8:40	ベンチ入り
	外野でキャッチボール				外野でキャッチボール
9:20	攻守決定	10:00～	選手来場	9:20	攻守決定
9:30	シートノック		球場周辺で着替え	9:30	ノック
10:00	試合開始		練習場でアップ	10:00	試合開始
	試合		第一試合4回終了時、攻守決定		試合
	試合終了	11:50 頃	入場、ベンチより外野側に荷物を置く		試合終了
	ベンチ片付け		外野でキャッチボール		表彰式・閉会式
	ベンチ撤収		ベンチ入り		ベンチ撤収
	球場周辺かスタンドで着替え	12:00	ノック		球場周辺かスタンドで着替え
		12:30	試合開始		
			試合		
			試合終了		
			ベンチ撤収		
			球場周辺かスタンドで着替え		